

パラ・パワーリフティング×企業のパワー

<第1弾> DENBA JAPAN 株式会社様

リカバリーの観点から競技力アップをサポート

2024年11月末に東京都障害者スポーツ協会様の主催による「企業×障害者スポーツ競技団体等の交流会 2024」にてマッチング。体内の水分子に微細な振動を与えることでさまざまな健康に対するお悩みのサポートができる機器を販売する企業。選手向けに体験会&説明会を実施し、希望する選手が1月中旬から利用。

◎DENBA JAPAN 株式会社様が期待すること

競技生活においてリカバリーやパフォーマンスアップをだれもが望んでいること、その部分で一助になればと考えています。使っていただくことで結果につながるものが私たちの存在意義に繋がります。選手のご活躍を期待しています。はじめて練習風景を見て、健常の方と全然変わらないのだなということに気が付きました。選手が長く活躍できるように、会社としてサポートしていきたいです。パラ・パワーリフティングは「持ち上げる」競技ですが、真剣に向き合っている選手の皆さんのトレーニングの様子を見学し、DENBAが明日への希望を「持ち上げる」力となれたらと思います。（岩間 大輔 氏 談）

◎選手の声

女子 61Kg 級 桐生 寛子（最近調子が良いのは DENBA のおかげかもしれません）

男子 72Kg 級 樋口 健太郎（快適に眠れています。飼い猫も DENBA のところに来ます）

免疫力向上や疲労回復、睡眠改善など、様々な健康効果をもたらすことが期待される DENBA によってのパフォーマンスアップに期待したい。

●ロビーにて体験いただけます。

※事務局スタッフのお試し利用でスポーツ選手だけでなく日常生活でも調子が良い、よく眠れる、疲れが取れやすいと感じました。



<第2弾> with クリエイター

初お披露目！デザインの力で課題解決

2022年に実施したクラウドファンディング「ロゴで応援！パラアスリートと一緒に戦う個人スポンサー募集」にてプロジェクトサポートをしていただいたアートディレクターの石田沙綾子氏にパラ・パワーリフティングの課題を相談。クリエイティブの力を合わせて取り組んでみましょう、とご快諾いただき実施。

◎取り組み内容

重いものを持ち上げる力強さや筋肉の他にも、多面的な魅力があることを知ってもらいたい、という現在の課題感を「パラパワーとあなたは繋がっている」をコンセプトとして作成することに。

キャッチコピーは、シンプルで開かれたその競技性にふさわしく、パラパワーの競技者にも、そうでない人にもまっすぐ届くような言葉に。

ビジュアルは一瞬で消費されるようなものではなく、「パラパワーの揺るがぬ価値」といったブランドに寄与する、「まじりっけのない」ものが完成。均整の取れた美しさ、カラフルさなどの新しい側面を押し出した。

今大会から、新ビジュアルチラシとして配布するほか、今後、営業ツールやイベント展示などに展開・活用していく予定。

◎クリエイターの声

デザイン：石田沙綾子氏

【コメント】シンプルの中に予想外の魅力や新しい発見がある奥深い競技で、虜になっていつも応援しています。文化的で、カラフルで、均整がとれ美しい。撮影時にはなんと、日本新記録が…!?. ぜひその引力を体験してください。

コピー：吉村優作氏

【コメント】パラパワーは、シンプルに力の強さを競う競技であるからこそ、ぶれることなく選手の人生が現れます。しかも一瞬に、です。そこに何か神々しいものを感じるのは、私だけではないはずだと思います。 ▽ビジュアル撮影の様子



<第3弾> 株式会社環境管理センター様

「応援」を支援し、3者の活躍・成長・活性化をサポート

2024年11月末に東京都障害者スポーツ協会様の主催による「企業×障害者スポーツ競技団体等の交流会2024」にてマッチング。環境調査、分析、コンサルタントなどの事業を展開。

本社所在地の八王子で行われる今大会、「応援」を通して3者の活躍・成長・活性化をサポート。

3者＝選手（パラ・パワーリフティング）×学生（日本工学院八王子専門学校）×地域（八王子）

◎環境管理センター様が今大会に期待すること

国を超えて、様々な背景を持つ選手が集まる場で応援できること、大変楽しみにしております。制限がある中でも、想像を超えたエネルギーを発する選手の皆様を心より応援いたします！

パラ・パワーリフティングは持ち「上げる」競技、にかけて「上げたい」ことは、会社として様々な方と「繋がる力」を上げたいです。今回のサポートを通じてこれまでご縁の無かった方々、団体様や企業様と出会い、繋がりや輪を広げていきたいと思えます。

◎応援盛り上げコラボの内容

メインビジュアルとしては選ばれなかったものの、「応援」に注目した提案（※）が評価された作品を「応援Tシャツ」として形に。観客に着用していただき客席を応援ビジュアルで埋め尽くし、視覚的にも応援の雰囲気盛り上げます。

選手へ応援を届けるだけでなく、より多くの生徒の活躍の場を創出し学生の成長にも寄与、大会開催地であり学校所在地でもあるこの八王子を盛り上げます。

※提案内容

観客の応援は、選手には見ただ目で伝わりづらいかもしれないと思い、見ただ目でも「応援しているぞ！」ということが観客も主張しやすいデザインを考えTシャツ案としました。Tシャツは出場選手と観戦事前申込者のうち各日先着80名に配布。



日本工学院八王子専門学校
デザインカレッジイラストレーション専攻
井上青龍さん